

神戈陵を渡る風

令和3年度 川辺高校 校長通信 第042号

令和4年2月10日(木)発行

2月の別称について調べてみました。【木の芽月】(このめづき)とも呼ばれています。この時期に吹く風は「木の芽風」、降る雨は「木の芽雨」、晴れば「木の芽晴れ」というそうです。木の芽を通して天気を見ていたようです。【雪消月】(ゆきぎえづき・ゆきげづき)とも呼ばれています。この時期に降り納めとなる雪のことを「雪の果て」と言うそうです。つまり、2月は雪がなくなる月。そこから出てきた呼び名のようです。2月の呼び名にも色々あって知ることって楽しいですね。

日本の色 2

2月の色 第二弾

日本の伝統色とその呼び名について、前は、緑色の系統だったので、他の色を川辺高校の周辺の写真と合わせて探してみました。ぜひ、皆さんもお気に入りの「にっぽんのいろ」を見つけてみませんか。

紅梅色 (こうばいいろ)

梅の花は早春のシンボルでもあります。紫がかかった紅色の慎ましやかな美しさは、古くから人々に愛されてきました。古い王朝の詩歌や『源氏物語』にも多く登場します。雪の舞う空に映える梅の蕾は、美しい絵画のようですね。

紅梅色
こうばいいろ



白梅色 (しらうめいろ)

ほんのり桃色に色づいた白梅のような色に癒されますね。楚々とした印象が人々を虜にしました。俳聖、与謝蕪村(よさぶそん)は辞世の句に白梅を詠んでいます。

無垢を象徴する白に近く、神秘性を醸し出しているようです。

白梅色
しらうめいろ



胭脂色 (えんじいろ)

深く紫がかかった濃い紅色の艶やかさが、人々を魅了してやみません。腹の奥底から煮えたぎるような情念を思わせる「モダンカラー」として流行しました。与謝野晶子の『みだれ髪』では、情熱的な表現として用いられています。

胭脂色
えんじいろ



田上岳の眺望

正月



今年の正月は温かい日が続いていました。1月3日に田上岳(たのかみだけ)ミニ登山をしました。山頂には、年末年始の期間中飾られていた大きな日の丸あり、南方には、うっすらと開聞岳を望むことが出来ました。



平山からの両添方面を望む眺め



平山からの小野方面を望む眺め



遠くに笠沙方面を望む眺め

右側には、お諏訪の体育館が見えています。



川辺高校の正門を入れてすぐ右側の校舎の手前には、矢石と呼ばれる細長い岩があります。

この岩には、大昔、開聞岳と田上岳がけんかをし、田上岳が投げたススキ(ススッコ)が開聞岳の肩にあたりました。怒った開聞岳が投げた大きな石矢(いしや)は田上岳まで届かず、この辺に突き刺さったという伝説があります。この伝説は、開聞岳は火山なので、噴火を表現している？ とか、どちらの山も昔から修験者(山伏)の修業の場だったので、その修験者同士の勢力争いを表現しているのでは？ という説があります。校内に、こんな謂われのある岩があるって、興味深いですね。

美術・書道のコラボ



2月4日より道の駅川辺やすらぎの郷に美術部と書道部の共同製作によるタペストリーが物産販売所の出口壁に展示されています。ぜひご覧ください。